

概要報告

実施期日	8月 2日(水)
部会名	中学校 特別活動部会

神奈川県研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実

テーマ

『社会参画に向けて ～地域との繋がり～』

提案概要

本提案は、『社会参画に向けて～地域との繋がり～』を主題とした生徒会活動の取組である。学校教育目標の一つに「郷土の文化を愛する人になろう（郷土愛）」がある。いわゆる「地域を愛する心」は本校の特徴である。開校以来、本校は地域の方々に支えられ、机上では学ぶことのできない多くの学びの機会を提供していただいた。また、地域の中に参加する機会もあり、本校生徒は地域の行事で一役を担い、地域貢献を行い、生徒自身の自己肯定感を育てあげる機会を得ることができている。また、学校生活の中でも行事の中でも、生徒一人ひとりが自信をもって主体的に参加できるようになってきた。

今回の提案では、本校が地域（学区や市内周辺）の方々との関わりの中で実施することができている「職業体験学習」や「文化交流会」、「郷土芸能大会への参加（地域の唄を学び歌う）」などの取組を紹介する。一方で、コロナ禍により中止されていた「地域貢献（地域への恩返し）」を、学校側が発案するのではなく生徒たちの考えを生かして実施することができないかと考えた。

①文化交流会

午前は地域の方と有志生徒による地域の唄や祭囃子などの発表や文化部の作品発表、午後は生徒が講座を選び参加する地域ふれあい講座を行う形の「文化交流会」として9月に実施した。

②郷土芸能大会への有志生徒の参加（「柳島大漁船上げ唄」と「柳島エンコロ節」）

郷土芸能大会とは、茅ヶ崎市内で受け継がれる郷土芸能の保存・継承・普及啓発を目的としたものである。本校は、地域の唄であり市の重要文化財である「柳島大漁船上げ唄」と「柳島エンコロ節」の2種類に2つの学年が有志生徒を募り参加してきた。「柳島大漁船上げ唄」と「柳島エンコロ節」は、学年全体でも唄って地域の伝統文化に関わる時間を設けている。この取組は、地域の先人たちが語り、唄い継いできた大切なものを中学生が歌い継ぐという地域貢献の一つを担っている。

③職業体験学習

令和4年度は4日間で実施。提案校ではこの4日間を「緊張の1日目、仕事を覚える2日目、仕事に慣れる3日目、仕事を創意工夫する4日目」となるように指導し、社会人として必要なことや仕事をするうえで大事なことを学び、これからの学校生活や進路選択に生かすことができるようになってほしいという思いをもって実施している。

生徒数104名に対し、事業所数が36ヶ所の事業所が引き受けてくださっている。その事業所のうち、20ヶ所（令和4年度）が学区内や学区周辺の事業所であり、それ以外にも本校生徒の保護者の方が勤める事業所や卒業生の経営する事業所もあり、本校の職業体験学習は多くの地域の方々の協力で4日間前後のもの期間実施することができている。

④地域への恩返し（地域ボランティア清掃）※悪天候により中止

生徒たちが「中学生の自分たちが地域や地域の方たちに対して貢献することができることはないだろうか。」を考え、生徒たちの意見の中で「登下校の道を掃除する」や「ゴミ拾い」が特に多かったため、全校生徒を対象とした「地域ボランティア清掃」を企画した。

（その他多かった考え）

地域の方たちに感謝の手紙を書く、福祉施設に行きボランティア活動、ビーチクリーン活動、小学生の登下校の見守りをする など

〈成果と課題〉

①文化交流会

文化交流会に参加するまでは、自分自身の参加の仕方や地域の方との関わり方について、漠然としていたり体験内容を楽しみたいと考えたりする生徒が多かった。しかし、文化交流会を終えて、自分自身が楽しみ・感動すると同時に、地域の方への感謝や教わったことを継承したいといった考えに変わっていった生徒が多くいた。「地域との繋がり復活」の第一歩であったと感じている。

②郷土芸能大会への有志生徒の参加

成果としては、「地域の唄を歌い継ぐことができること」「地域の方に教えてもらいながら歌い、生徒と地域の方との交流があること」「中学生が地域の方と歌い、その取組が地域の方から感謝されること」などがある。

③職業体験学習

働くということについての考えとして、体験前は「大変」や「忙しい」「お金を稼ぐ」「疲れる」といったものが多く見られた。しかし、体験後には、「自分の知らないところで誰かが動いてくれていること」「助け合い・思いやり」「コミュニケーションが大事」「丁寧な対応・言葉遣いが大切」などに考えが変わった生徒やさらに考えが深まった生徒が増えた。また、職業体験学習を経験して感じたことや考えたことを学校生活や将来に生かしたいという考えをもつ生徒が多かった。職業体験学習は、生徒数が多い学校や学年ほど、協力していただける事業所を確保することが難しい。しかし、地域の方々との繋がり深い本校は、比較的確保しやすいと感じている。

④地域への恩返し（地域ボランティア清掃）

地域への恩返しについて、生徒たちが活発に意見を出し合うことができた。課題としては、天候や各学年の行事などの影響を考えて、年度当初から1年間の特別活動のカリキュラムの中に入れて、予備日などを設けておく必要があった。

質疑応答

なし

協議の柱及び協議概要

【協議の柱】

「地域との関わりがある特別活動を各校でどのようにされているか」

【協議内容】

- ・地域の特性を活かした体験活動（サーフィン、ヨット、地引き網、農業など）
- ・2学年の総合で「より良い町にするためには」をテーマに行った。子育てなど
- ・総合的な学習の時間に行っていたが、今回の発表により、特別活動に新たな可能性を見出すことができた。

まとめ概要

今回提案したそれぞれの行事が、どれも地域との深い繋がりのおかげで成り立ち、繋がりが深いからこそ地域への恩返し（地域貢献）について、生徒たちから自発的に活発な意見が出てきたのではないかと考えられる。また、この取組が地域における生徒たちのコミュニティの広がりにつながっている。実際に、文化交流会の講座で体験した内容を地域のお祭やイベントなどで取り組んでいる、または、取り組み始めた生徒もいる。学校行事で出会った地域の方がいるからという理由で、コミュニティセンターで行われている地域主催の学習会に通い、自分の居場所を見つけた生徒もいる。

地域や社会に出ることは、特別活動の目標である「集団や社会における生活および人間関係をよりよく形成すること」に繋がり、「人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う」ために必要なことであると考えられる。